

大阪教育大学 教員養成フラッグシップ大学構想

ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師の育成
－協働・省察を促し、教育DXの推進による先導的・革新的教員養成カリキュラム－

令和4年4月25日

ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師の育成 —協働・省察を促し、教育DXの推進による先導的・革新的教員養成カリキュラム—

大阪アドバンスト・ラーニング・センター(OALeC) の設置

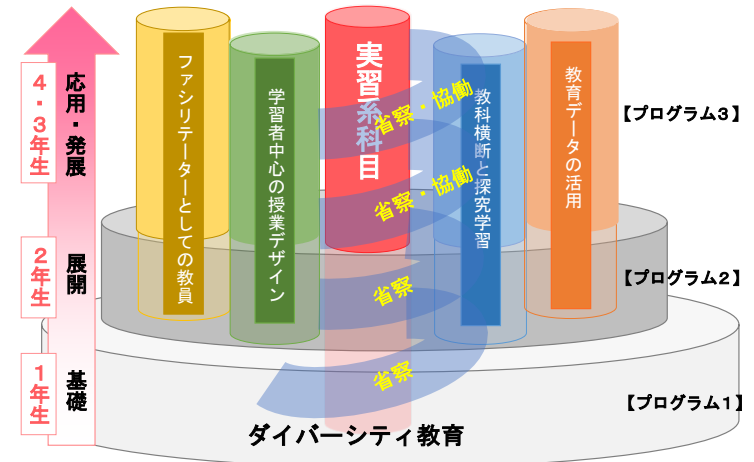
全国に類をみない
日本初の計画

日本の将来を見据え、学校教育に求められる変革に、教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題（弱み）や資源（強み）を一堂に集積し、大きな成果を生み出す共創環境



先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

学部におけるダイバーシティ教育をベースとしたカリキュラム開発
ダイバーシティ教育をベースとした、4つのテーマ領域と省察科目で構成される先導的・革新的な教員養成カリキュラムの開発



OALeCを活用した教職実践教材「バーチャルスクール」等の開発

OALeCに参画する地元教育委員会、企業との共同により、クラウド上でバーチャルな学校を体験・経験できる教職実践教材「バーチャルスクール」を開発

教職大学院共通5領域必要単位数の弾力措置の活用

【新たな領域】ダイバーシティ理解、多職種協働による組織マネジメント、教育DX・STEAM実践、教育グローバル人材育成（2単位）

教育学部と連合教職大学院の一体的カリキュラム開発

入口から出口までのキャリアパス

- ✓ 教育実践コースに「6年一貫教員養成プログラム」を導入
- ✓ 養成・採用・研修を貫く「附属学校教員養成コース（仮称）」を設置

⇒ 地元教育委員会との連携による養成・採用を接続したコースに展開

教員養成指標と連動した教員研修プログラム開発

コンピテンシーベース 教員研修

連合教職大学院の授業科目群と統合した仕組を構築

新たな形の大学教員FDを提案

学習観・授業観の転換のための教育研究手法

- ✓ 学生の学び合いをファシリテーションする力量を形成するFD
- ✓ 座学を中心とする知識伝達型から、実践経験型のFDへ

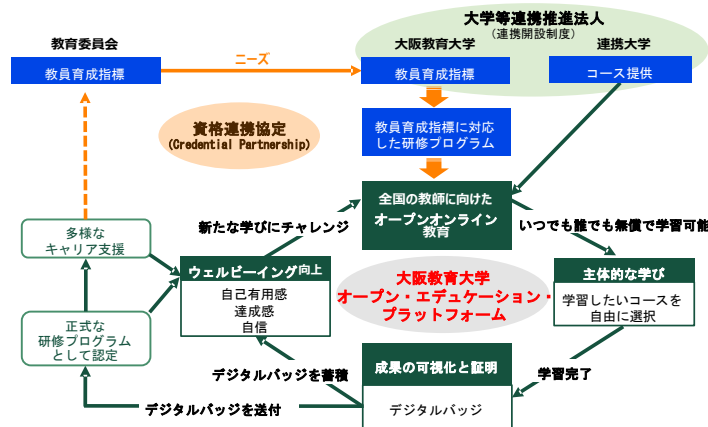
全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

大学間連携を通じた展開

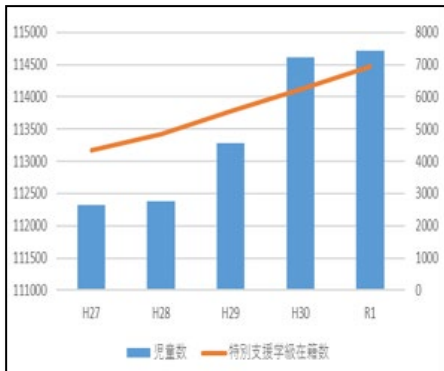
連携開設制度の活用などによる、先導的・革新的な教員養成カリキュラムの展開

学び続ける教員を支えるプラットフォームの構築

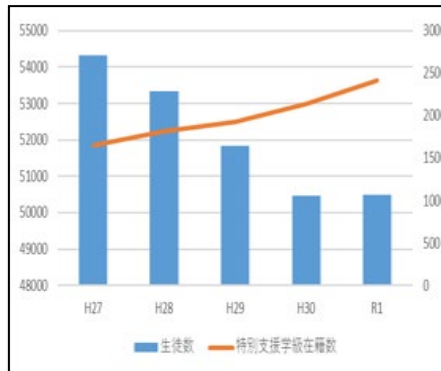
- ✓ オープン・エデュケーション・プラットフォームの構築
- ✓ 連携大学、教育委員会、学校現場による相互コンテンツ提供
- ✓ チャットボット（AI）によるコンテンツ推奨機能
- ✓ デジタルバッジによる成果の可視化と証明



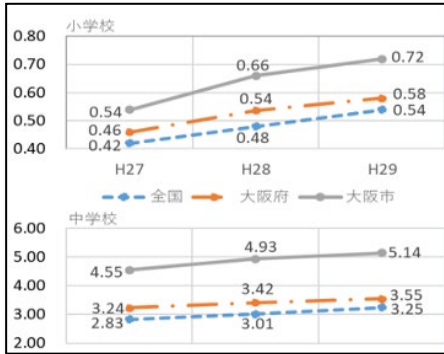
テーマ設定の理由・背景



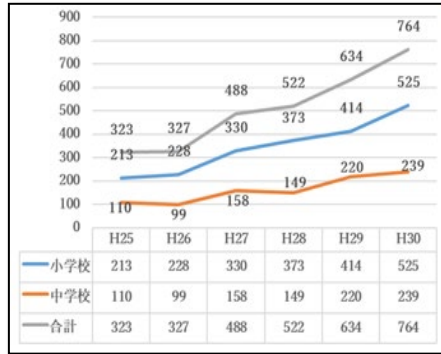
大阪市の小学校児童数と特別支援学級在籍数



大阪市の中学校生徒数と特別支援学級在籍数



大阪府・市の不登校児童生徒数（在籍比率）



大阪市の日本語指導の必要な児童生徒数の推移

家族の介護や世話を担う子ども「ヤングケアラー」
 【大阪府教育委員会による調査（2021年）】
 全日制の大阪府立高校に通う生徒の17人に1人にあたる5.7%が「世話をしている家族がいる」と回答

日本の教育課題の縮図
・全国平均に比して深刻

大阪の教育課題

- ・特別支援学級在籍者数の増
- ・日本語指導が必要な児童生徒の増
- ・貧困状態や不登校児童生徒数の増
- ・ヤングケアラーの増

大阪から日本の教育を変える

大阪の教育課題を踏まえ、以下⑥の重点課題に定めるべく、①～⑤及び⑦の課題と組み合わせて先導的・革新的な教員養成カリキュラムの開発と成果の展開を目指す。

【重点課題⑥】 障がいのある児童生徒、外国人児童生徒、不登校、経済的に困難な家庭の児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒等、多様な子供への理解と対応力

**ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、
 学習者の学びに寄り添う教師の育成
 -協働・省察を促し、教育DXの推進による
 先導的・革新的教員養成カリキュラム-
 を本学独自のテーマとして設定**

多様な児童生徒一人一人に寄り添った、きめ細やかな指導力を備えうる、実践力に力点を置いた人材養成カリキュラムを開発

単に知識を教える教員ではなく、ファシリテーター的能力を有した教員を養成

**大学はもとより、企業や自治体を通じて成果事例を
 日本全国に発信・浸透**

「指定大学に求められる重点課題」と科目等の対応関係

指定大学に求められる重点課題	学部 1年生	学部 2年生	学部 3年生	学部 4年生	教職大学院 1年生	教職大学院 2年生
①学習者中心の授業デザイン・学習活動デザインについての理解増進、ファシリテーターとしての教師の役割についての意識向上		【プログラム2】 ・ファシリテーターとしての教員Ⅰ ・学習者中心の授業デザインⅠ	【プログラム3】 ・ファシリテーターとしての教員Ⅱ a・b ・学習者中心の授業デザインⅡ a・b			
②教育学や教師教育学、学習科学等に基づく省察の実践（仮説設定、教育実践、省察）を通じて学び続ける教師としての意識・態度の育成	【「省察」と「協働」を促す科目】 ・教師の学びと成長（教職入門実習を含む）	【「省察」と「協働」を促す科目】 ・教師の職能と専門性	【「省察」と「協働」を促す科目】 ・実践的仮説と省察（特例措置外科目）	【「省察」と「協働」を促す科目】 ・連携協働活動演習（特例措置外科目）		
③学習者中心の視点に立った教職科目体系の見直し（教科専門を含む）	・教員養成フラッグシップ大学構想における先導的・革新的教員養成カリキュラムの編成 ・令和6年度に計画している学部と教職大学院の一体的な改組					
④教師・保護者・地域・専門家等と協働する態度や、協働できる環境を整える組織マネジメントの資質・能力の育成			【「省察」と「協働」を促す科目】 実践的仮説と省察（特例措置外科目）	【「省察」と「協働」を促す科目】 連携協働活動演習（特例措置外科目）	【教育グローバル人材の育成に関する領域】 ・グローバルスタンダードの展開	【多職種協働による組織マネジメントに関する領域】 ・チーム学校の実践的展開
⑤学校現場における教育データサイエンスの活用やSTEAM教育を先導する人材の育成		【プログラム2】 ・教科横断と探求学習Ⅰ ・教育データの活用Ⅰ	【プログラム3】 ・教科横断と探求学習Ⅱ a・b ・教育データの活用Ⅱ a・b		【教育DX・STEAM実践に関する領域】 ・教育におけるDXとSTEAMの理論と実践	
⑥障害のある児童生徒、外国人児童生徒、不登校、経済的に困難な家庭の児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒等、多様な子供への理解・対応力	【プログラム1】 ・ダイバーシティと教育 ・現代社会と子どもの権利 ・障がい者支援入門 ・外国人児童生徒教育	【プログラム2】 ・ダイバーシティ教育の理論と方法Ⅰ	【プログラム3】 ・ダイバーシティ教育の理論と方法Ⅱ		【ダイバーシティの理解に関する領域】 ・特別ニーズ教育の理論と実践 ・外国にルーツのある子どもの教育 ・子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	【ダイバーシティの理解に関する領域】 ・社会的包摂に関する実践的探究
⑦学部と教職大学院の一体的な教員養成カリキュラムの検討、現職教員研修（教員育成指標）との連携の在り方の検討	【学部と大学院の一体的な教員養成カリキュラム】 ・学部との系統性を踏まえた教職大学院カリキュラム ・6年一貫教員養成プログラムの導入 ・附属学校園の特色を生かした教員の養成・採用・研修モデル ・地元教育委員会との連携による養成・採用に接続したコースの構想					
					【現職教員研修との連携】 ・教員育成指標と連動したコンピテンシーベースの教員研修プログラム	



教員育成指標に対応した管理職研修



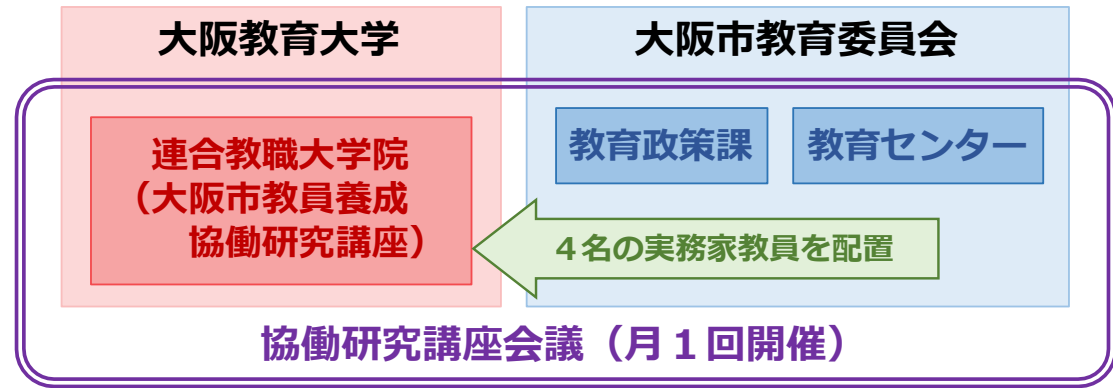
学校教育ICT推進リーダー 3期生



「海外の学校改革に学ぶ」研修プログラムの成果報告会の様子



「エビデンスベースの学校改革」研修プログラムの公開研修会の様子



次世代の学校を担う教員育成のための共同研究

教員・管理職の資質向上 研修及び教員育成指標に基づく体系的な研修に資する研究

- 大阪市の管理職研修について、教員育成指標に対応する選択制の研修講座を開発した。令和元年度は、全9講座中、8講座を本学教職大学院教員が担当し、のべ273名の管理職が参加した。
- 教職大学院のカリキュラムと組み合わせ、他地域の学校を訪問する防災教育プログラムや、それをさらに発展させた防災教育研修を開発・実施した。

複雑化・多様化する教育課題の解決に資するための実践及び研究

- 「学校教育ICT推進リーダー」養成プログラムの他にも、「海外の学校改革に学ぶ」研修プログラム、「エビデンスベースの学校改革」研修プログラムを開発した。各プログラムを授業科目に位置づけるとともに、研修の受講者を科目等履修生として受け入れた。

教育委員会との連携事業を、[連合教職大学院ブログ](#)で発信しています。

産業界との連携状況

令和2年度にネーミングライツ制度を導入し、柏原・天王寺キャンパスの「附属図書館まなびのひろば」のネーミングライツを公募。東京書籍がネーミングライツ・パートナーに決定し、上記施設を「東京書籍 Edu Studio」と呼称

同室内に「**デジタル教科書体験コーナー**」を設置
同社からデジタル教科書端末等が無償提供

取組に賛同した企業から電子黒板、ノートPCが提供され、
GIGAスクール時代の学校現場のモデルを構築



コーナー開設にあたり、講座の模擬練習に取り組む学生サポーターたち

全学FD事業「デジタル教科書体験会」等の教育研究活動や、
企業とのさまざまな協働事業を展開



電子黒板を活用したデジタル教科書に関する大学院生の研究発表会

産業界との連携状況

- 包括連携企業 12社
- 外部人材の受入れ 17名

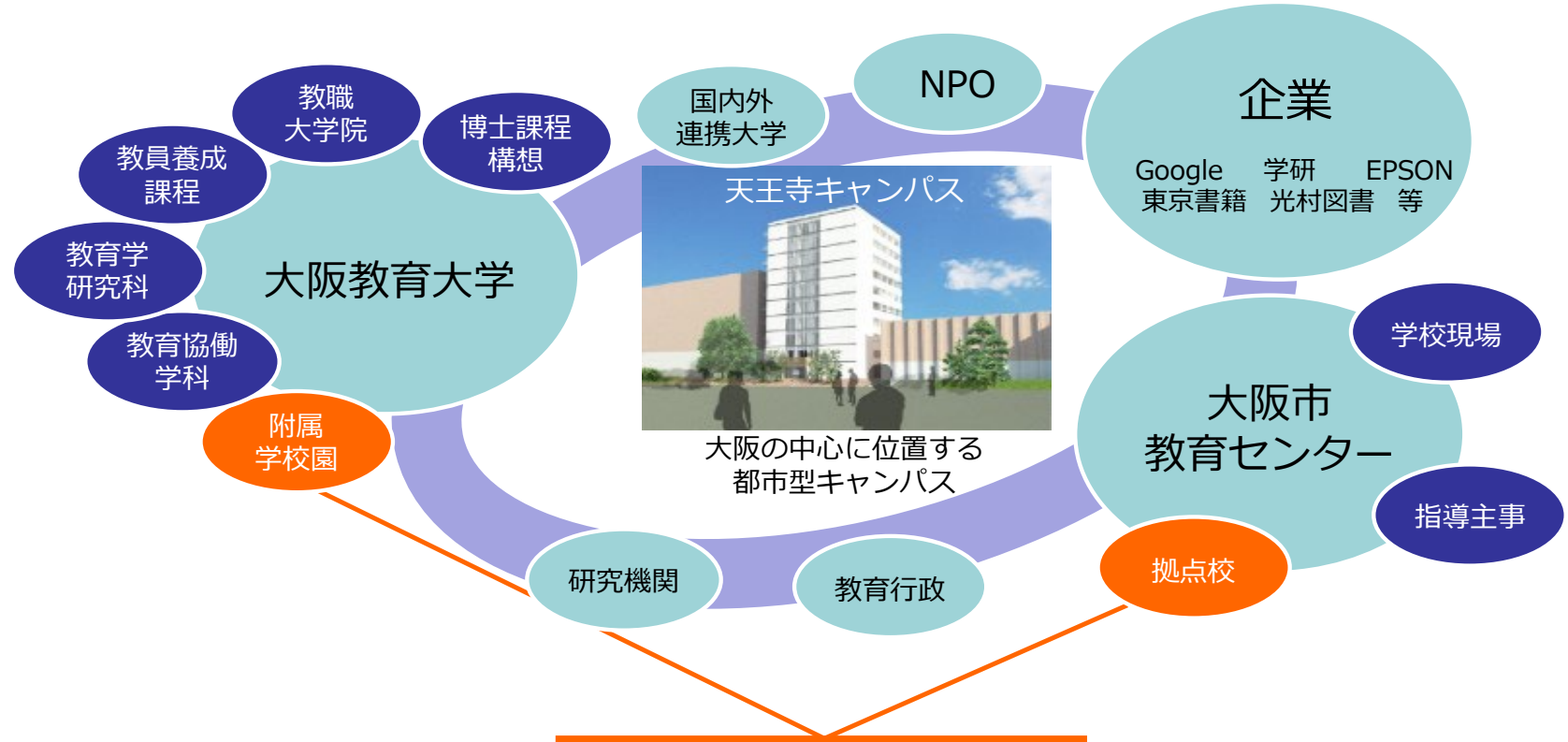
企業との協働による研究

- ▶ 各教科のデジタル教科書に関する性能評価
- ▶ デジタル教科書使用時の電子黒板の性能評価
- ▶ GIGAスクール構想実現に向け学校現場での課題整理と解決に向けた実践実証
- ▶ 小・中学校のタブレット等端末で使用できるSDGs学習ゲーム及び指導法・指導パッケージの開発

大阪アドバンスト・ラーニング・センター（OALeC）を拠点とした 教員養成に係る地域連携プラットフォームの構築（イメージ）

日本の将来を見据え、学校教育に求められる変革に教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題（弱み）や資源（強み）を一同に集積し、大きな成果を生み出す仕組みを構築することを通じて、**大阪から日本の教育を変えていく**。

その目的の実現に向かって一緒に考え、汗をかく**真のベストパートナーシップ**をめざす。



- 大阪版チーム学校モデルの構築**
- 産学官連携による共同研究、実証研究
 - 協働と省察を促す実習指導
 - 養成・採用・研修の実質化モデル
 - 学部生や大学院生のみならず、大学教員 (FD)や企業にとっての学びの場

未来型教室

- ・企業との連携により常に最先端の設備を整備
- ・新しい専門性に資するプログラム開発
- ・最先端技術の実証研究や授業編成



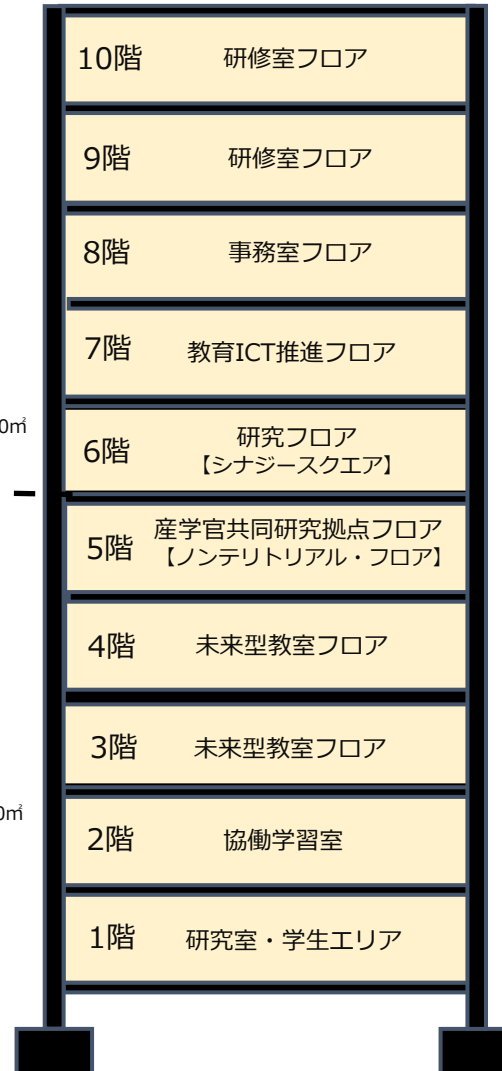
グループ学習を主体とした普通教室



デジタルとアナログの共存する教室

新・大阪市総合教育センター
約3,000㎡

大阪教育大学
約3,000㎡



ノンテリトリアル・フロア

産業界や附属学校園、教育委員会等の多様な人材が交流し、共同研究を行う



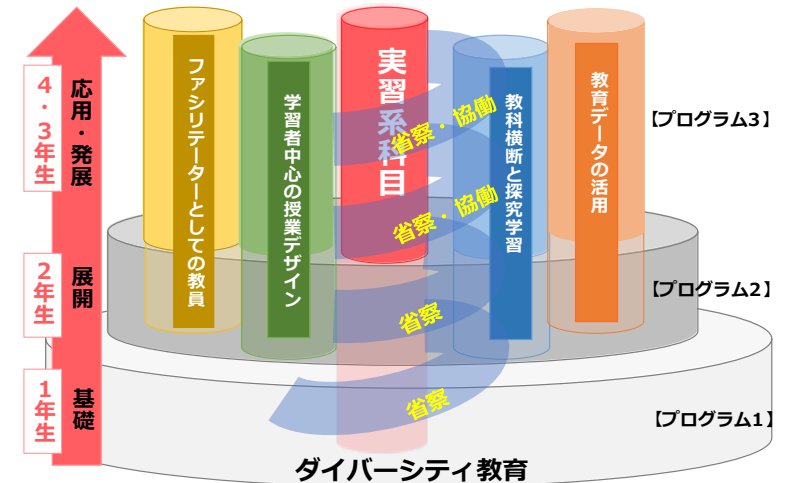
企業ブース



コワーキングスペース・
プレゼンテーションコート

◆先導的・革新的な教員養成プログラム

ダイバーシティ教育の「基礎」、「展開」、「応用・発展」で構成された3つのプログラムの積み上げと、それを貫く実習系科目、各プログラムと実習系科目をつなぐ省察・協働により、理論と実践の往還を通じてより深い学びを実現



年次	積み上げ型の3つのプログラム	特例単位数			「学び続ける教師像」のための 「省察」と「協働」を促す実習系科目	特例単位数		
		小	中	高		小	中	高
1年生	【プログラム1】ダイバーシティ教育の基礎 ▶ダイバーシティを尊重し、多様な児童生徒一人一人を理解するための基礎科目 ▶「ダイバーシティと教育」、「現代社会と子どもの権利」、「障がい者支援入門」、「外国人児童生徒教育」を開設	4	4	4	▶各プログラムのテーマと教職課程のすべての科目を有機的に連携させ、学び続ける教師のために必要となる資質能力を育成することを目的に、理論と実践を往還する「省察」科目を導入 ▶1・2年生はシングル・ループの省察、3・4年生はダブル・ループの省察の機会を提供 ▶教育協働学科との連携・協働により、PBL（問題解決型学習）科目として連携協働活動演習を実施 ▶要所において学年を解いて1～4年生混合のグループを編成し、互いの経験と省察を語り傾聴する活動を組織（クロス・セッション） ⇒高学年から低学年に経験の受け渡しをすると同時に、異なる文脈の他者との対話を契機にダブル・ループの省察を促す			
2年生	【プログラム2】ダイバーシティ教育の展開 ▶「ダイバーシティ教育の理論と方法Ⅰ」をベースとし、4つのテーマ領域に対応した学習指導法を開設	5	5	5				
3年生	【プログラム3】ダイバーシティ教育の応用・発展 ▶第1タームに応用・発展的科目である「ダイバーシティ教育の理論と方法Ⅱ」を開設 ▶第2タームに、4つのテーマ領域の学習指導法から、小学校一種免許と中学校一種免許は2テーマ、高等学校一種免許は1テーマを選択して受講 ▶児童生徒が多様な人々と協働しながら新しい価値を創造していく力を身に付けるための学習指導法を修得	5	5	3		2	2	2
4年生								

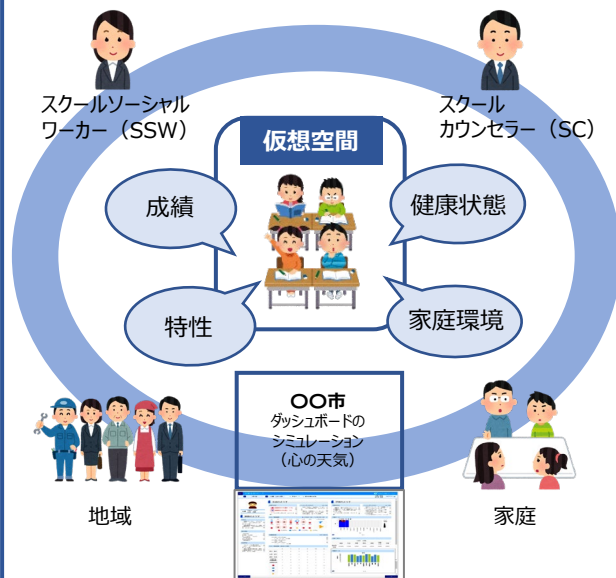
教職実践教材「バーチャルスクール（仮称）」の教材開発

クラウド上に教室や学校を取り巻く地域をバーチャルに構築し、様々なバックグラウンドを持った子どもや、学校現場を取り巻く様々な職種、地域等をシミュレーションできる教材を開発し、**学生の経験を拡張**する。

ICTの利点を生かし、他大学へも展開するとともに、受講生のフィードバックを反映できるシステムとして構築する。

シミュレーションクラス

- ▶ 様々な児童生徒の成績、特性、健康状態、家庭環境等や、学校を取り巻くチーム学校 人材、地域等をシミュレーション
- ▶ 「協働する態度」や「組織マネジメント能力」、「多様な子供理解」の深化や評価を行う

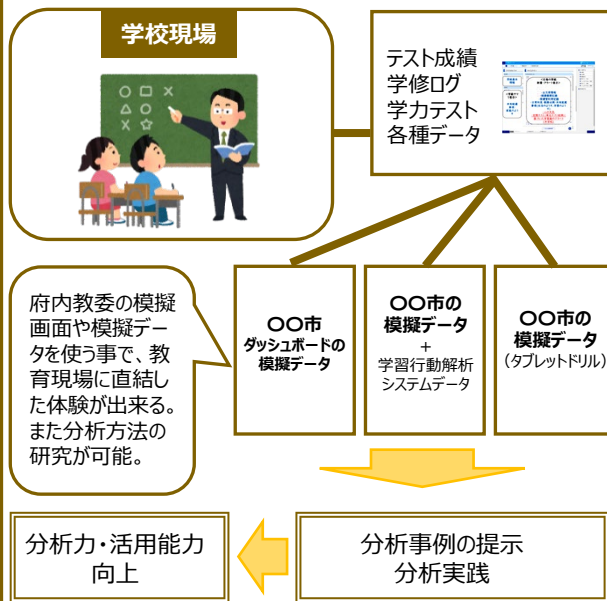


<育成する力量>

- ◆ 子どもたちのコミュニティにおける学びの充実に関わる力
- ◆ 多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、組織的・協働的に諸課題の解決に取り組む力（コミュニティを組織する力）

データサイエンスクラス

- ▶ 大阪府内の教育委員会との連携により、テスト成績や学修ログ等のビッグデータ（模擬データ）や分析事例を収集し、分析事例の提示や分析力の評価を行う

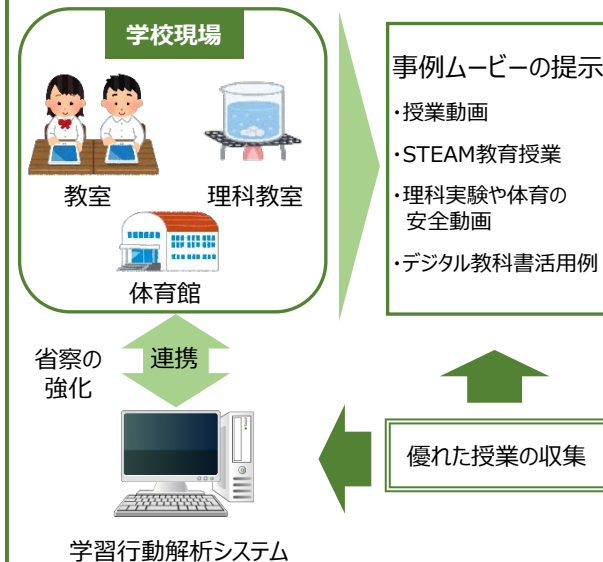


<育成する力量>

- ◆ 教育データを活用する力

事例ムービークラス

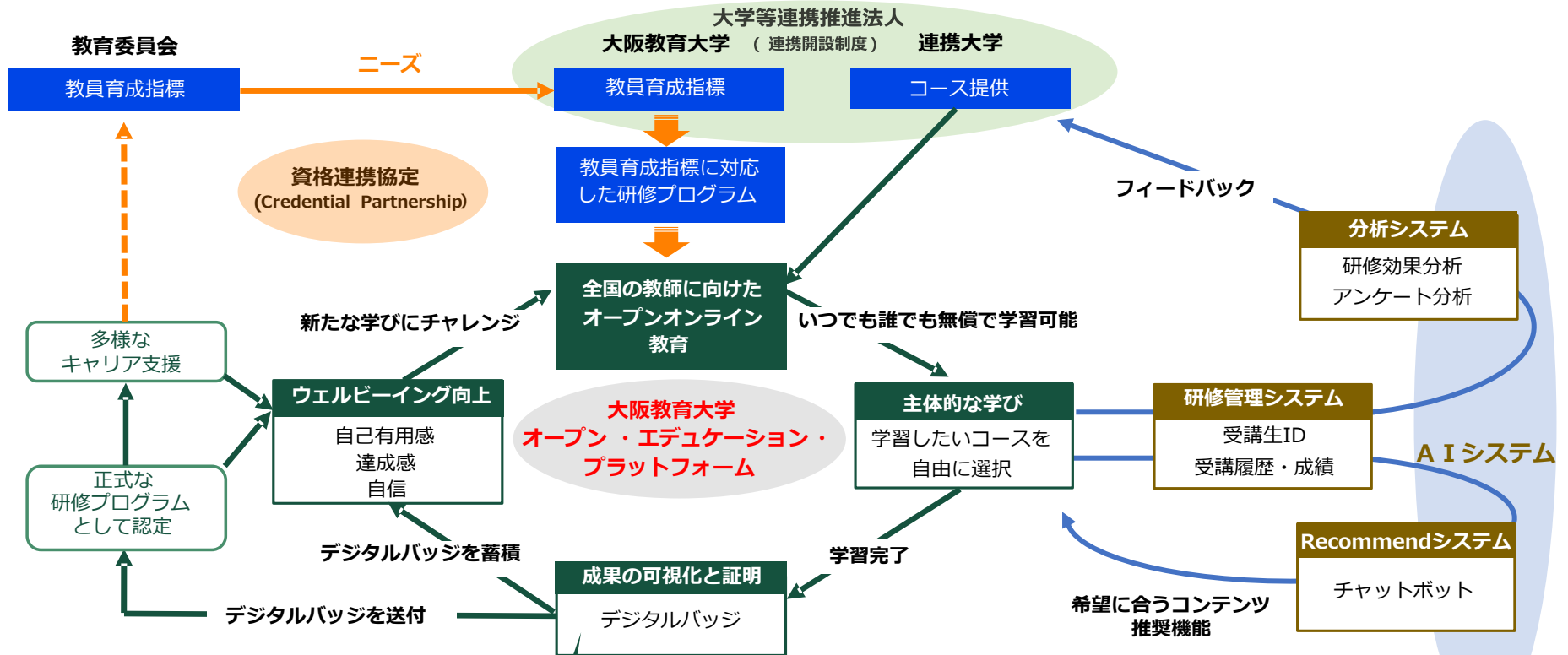
- ▶ 理科実験や体育等を含む、様々な授業実践動画の配信
- ▶ 実習授業の省察への活用
- ▶ 安全教育への活用




<育成する力量>

- ◆ 学習観・授業観・教育観・学校観を問い直し、学び続ける力（省察する力）
- ◆ 学びの場を編み直す力（コミュニティを再構成する力）

学び続ける教員を支えるプラットフォーム



	取得者詳細
名称	21dky00365
発行者詳細	
発行者名	OKU教育情報発信プラットフォーム
バッジ詳細	
名称	R3必修01-履修完了バッジ
言語設定	日本語
説明	令和3年大阪教育大学 教員免許更新講習、「教育の最新事情」の履修を完了したことを証明します。
コース	【必修】教育の最新事情
クライテリア	次の必要条件を完了した場合、ユーザにこのバッジが授与されます: <ul style="list-style-type: none"> 〇 “フィードバック - 事後アンケート”
バッジ有効期限	
発効日	2021年 08月 31日(Tuesday) 16:36
有効期限	2022年 04月 1日(Friday) 00:00
エビデンス	このバッジは完了に対して発行されました: <ul style="list-style-type: none"> 〇 “フィードバック - 事後アンケート”

資格連携協定 (Credential Partnership)

コンピテンシー単位など細かく区切られた学習単位で学習成果を証明

↓

複数の組織が学習成果を証明 (対面講習の学習成果も証明可能)

↓

受講者は自らが所属する機関 (教育委員会など) の正規のプログラムを受講したと認証される

令和6年度改組

実証研究を踏まえた将来構想

学部+教職大学院の 6年一貫教員養成プログラム

- ◆学部4年生における教職大学院開講科目の先取り履修
- ◆学部生と多様な大学院生が学び合うコミュニティを創出
- ◆教員免許取得のニーズへの柔軟な対応
- ◆他大学との連携強化
- ◆多様な進学者へのきめ細かな対応

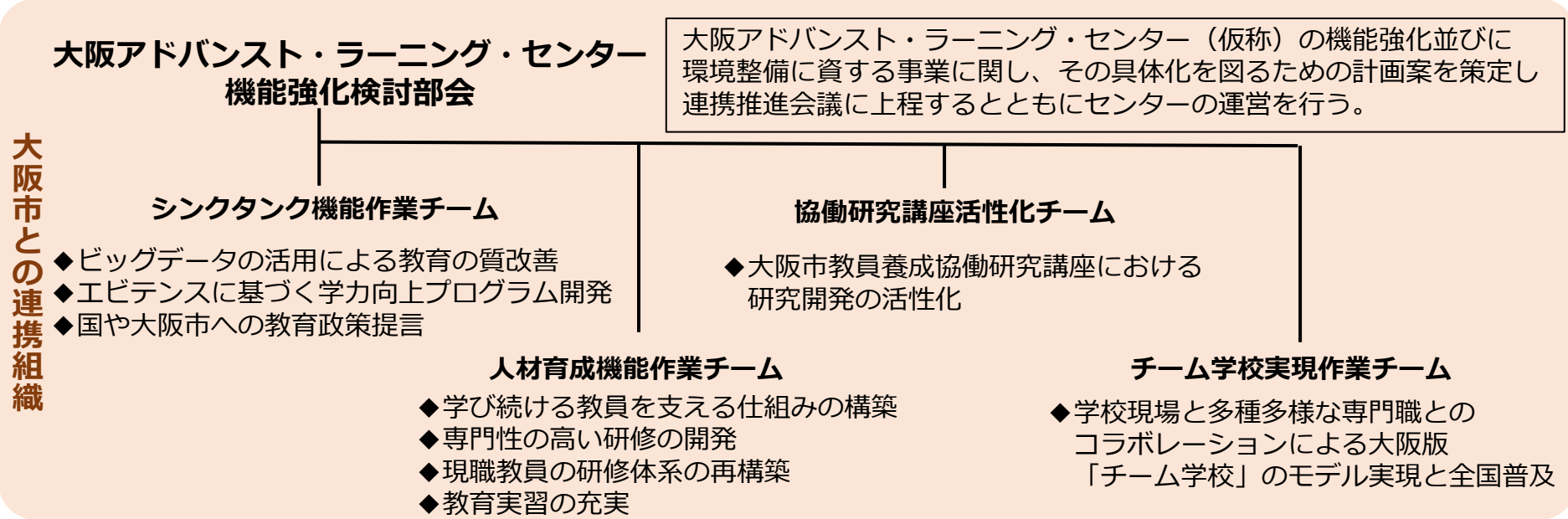
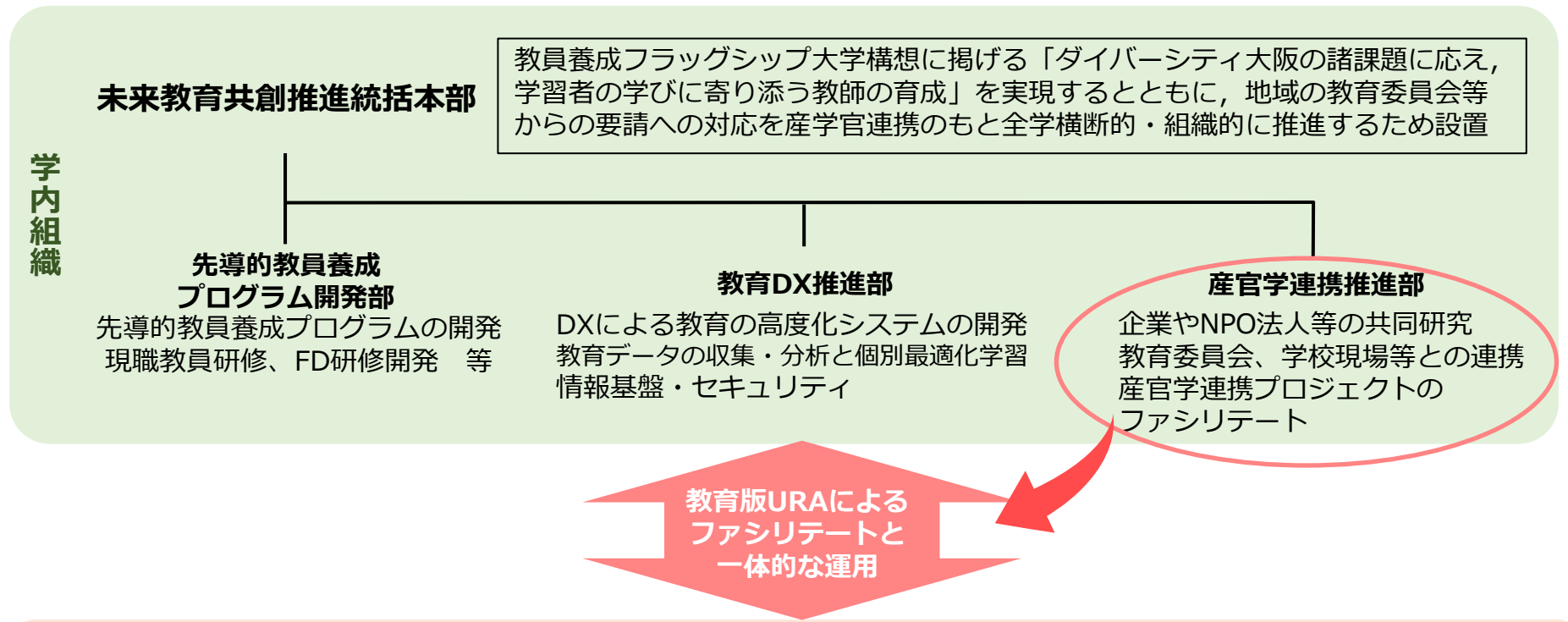
大学院2年生で学校現場に赴任する
インターンシップ制度

学部+教職大学院の
5年一貫履修プログラム開発

教育委員会との連携による
養成・採用に接続した
プログラムの導入

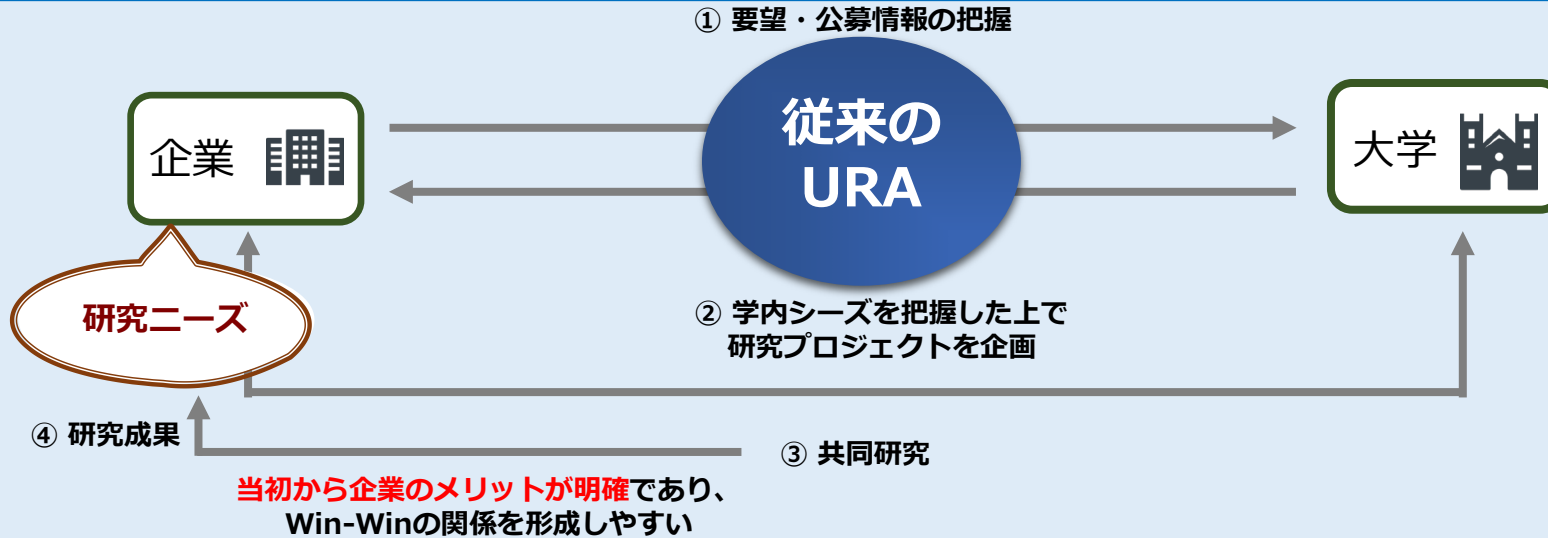
【期待できる成果】

- ◆学部4年生での先取り履修により、大学院1年生で他校種、別教科の免許取得が可能（特別支援免許状を含む）
⇒ 特定分野に強みや専門性を持つ教員や、校種間接続に対応できる教員の養成
- ◆入口から出口まで一貫性を重視した質の高い人材の輩出
- ◆大学院博士課程設置構想との接続
- ◆学部生と大学院生とが学び合い



従来のURAと教育版URAの比較

✓ 研究活動の企画・マネジメントを行うなど、研究者が最大の研究パフォーマンスを発揮するためのサポートが中心



- ✓ 研究成果を教育課題の改善策や教育政策の提示・支援に繋げる支援が主な目的
- ✓ 研究分野のみでなく、教育現場や教員養成の専門的知識に精通することが必要

企業のメリットを明確化し、Win-Winの関係を構築することが必要

